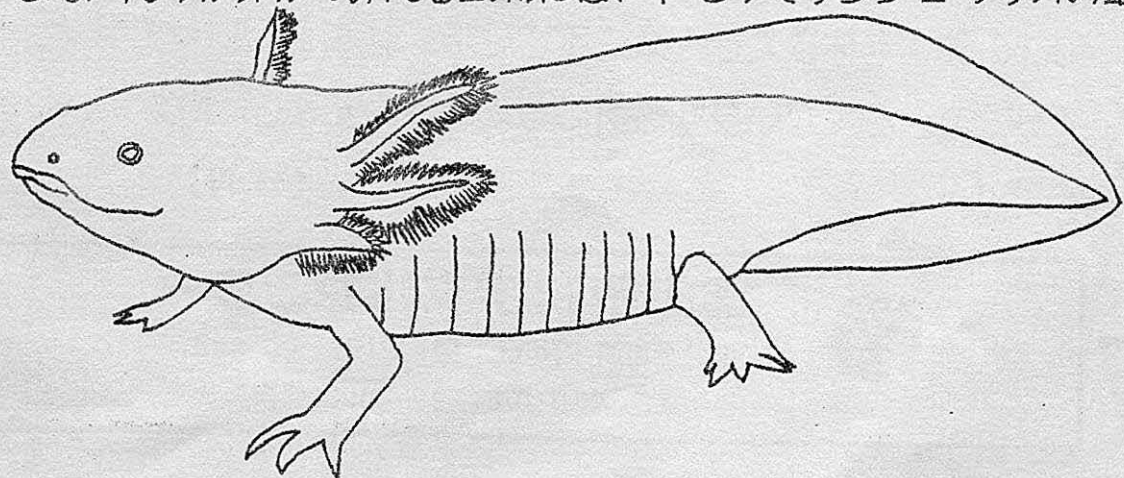


ウーパールーパーってなんだ?

昨年はエリマキトカゲ、今年はウーパールーパーと外国生まれの動物がテレビのコマーシャルなどに登場しています。さて、ウーパールーパーとはいったいどんな動物でしょうか。その正体をさぐってみましょう。

顔をみてみると、あごの横から何かアラシのようなものがでています。これがこの動物をさぐる手がかりとなりそうです。このアラシの毛にあたる部分には血液がながれています。これは、実は水中で呼吸をするための“えり”なのです。えりのある動物で最初に思いあたるのは魚ですが、魚のえりはえりぶたにかくれているので外からは見えません。ただ肺魚は例外で、幼魚には外からみえるえりがあります。ウーパールーパーには手足がありますので肺魚ではありません。オタマジャクシにもえりがありますが外からはみえません。えりが外からみえる動物には、イモリやサンショウウオの幼



生（カエルのオタマジャクシにあたる）がいます。実はウーパールーパーはサンショウウオの仲間の幼生なのです。しかし、ウーパールーパーという名前は人間が商売のために考えた商品名で、本当の名前はメキシコサンショウウオ、またはアホロートル（現地の言葉で”水で遊ぶ”という意味）といます。また、ウーパールーパーは、突然変異で体が白くなったもの（アルビノという）をさすようです。

このメキシコサンショウウオは、変態をしないで幼生のまま大きくなり卵を生む（ネオテニーまたは幼形成熟という）ので、昔から有名なサンショウウオです。オタマジャクシが変態をせずそのまま大きくなり卵を生むようなものです。しかし、変態を促進する甲状腺ホルモンを注射したり、餌として与えるとえらや尾のひれがとれ体もしっかりして変態することが知られています。日本でも古くから北海道の倶利伽羅湖くつたりこに生息するエゾサンショウウオが幼形成熟することが知られています。

“ウーパールーパー”、変った姿をしているので、遠い見しらぬ国の動物にみえますが、富山県にいるイモリやワロサンショウウオの幼生も体は大きくありませんが、ウーパールーパーにそっくりです。あながい身近な所にも変わった姿をした動物がいるものです。

(H.N.)



富山市科学文化センター

富山市西中野町3丁目1番19号 (〒939)

電話 富山(0764) 91-2123(代表)

昭和60年10月1日発行